

読書活動推進NEWS

こちらの QR コードから、閲覧・ダウンロードができます→



読書活動支援者育成事業 南会津地区研修会 ①

8月5日(水)、南会津町南郷総合センターにおいて、子供たちの読書活動推進に向け、読書活動支援者の育成や資質向上を図ることを目的とした、読書活動支援者育成事業南会津地区研修会を開催しました。

当日は、図書ボランティアや読書ボランティア、子ども教室の方や公民館の方など読書活動支援に関わる方だけではなく、読書好きな一般の方も参加されました。午前の部は、いわき語り部の会 幹事 小野陽洋(あきひろ)さんを講師に迎え、2011年の東日本大震災についてお話しいただきました。小野さんは当時20歳で被災し、祖母を守るために自宅に残り、津波に遭うも奇跡的に生還を果たしました。小野さんの体験談は、参加者が考えさせられる内容で、たくさんの教訓を得ることができました。



いわき語り部の会 小野 陽洋 氏

講演「震災語り部」による講演

～参加者の感想から～

「震災語り部」による講演では、実体験をもとに話されて、呼吸をするのを忘れるくらいお話しに引き込まれてしまいました。防災について改めて見直そうと思いました。

命の大切さ、守る大切さを改めて感じました。日頃からの備えや訓練が大切であると感じました。

実際に体験した方のお話は心に響きますね。「自分はこの助かり方(逃げなくて助かる)でよかったのか」という小野さんの問いかけが心に残りました。自分の命は自分で守る。大切なことだと思いました。今後ぜひ頑張ってください。



今まで何度か語り部さんのお話を聞きましたが、これまでとは違った視点でのお話でした。聞いていて、何度も涙がこぼれそうになりました。



<小野 陽洋 氏>

小野陽洋さんは東日本大震災において、当時、福島高専に在学中で、海を目の前に臨む自宅で80歳だった祖母と被災しました。語り部を始めたきっかけは、令和元年東日本台風で被災した知人が避難行動をとらなかったことを知り、伝えることの大切さを痛感したので語り部として活動を開始したそうです。

講演会では、祖母が避難を拒み祖母を守るために一緒に家に残った時の体験談や、震災時の画像から被害の大きさなど、当時の様子や判断の難しさなど体験したことを講演していただきました。